

公益財団法人ライフ・エクステンション研究所付属

永寿総合病院・柳橋分院・予防医療センター

広報誌

2022年

1号

VOL.112

えいじゅ

院長・センター長挨拶

看護部長挨拶

goo Drug

トリプルワーマミー
Triple Whammy に注意!!

教えて! 気になる病気の話

連載 よくある症状『頭痛』について①

検査科だより

新型コロナウイルス抗体検査について



院 長 ・ セ ン タ ー 長 挨 拶

信 頼

永寿総合病院柳橋分院 院長
米丸 亮

Makoto Yonemaru



人 に 尽 く す

永寿総合病院 院長
愛甲 聡

Satoshi Aikou



充 実 し た 医 療 提 供 体 制 へ 向 け て

あけましておめでとうござい
ます。昨年の今頃は新型コロナ
の第3波に見舞われ、ワクチ
ンの完成と普及を心待ち
にしておりました。まだまだ
制約の多い生活を強いられて
はいますが、この一年で社会
は確実に進歩しています。

今春、当院では人員不足の
ために閉鎖していた病棟を
順次再開する予定です。毎
月新入職の看護スタッフを
迎え、その人数が充足して
からも患者さんを安全に看
護するために予定より長い
準備期間を設けてまいりま
した。2月以降、人員も気
力も充実して本来の永寿が
動き出すことになりました。

また、感染防御対策として
は、引き続き入院前に患者さ
ん全員のPCR検査を行って
陰性であることを確認してお
り、緊急入院の場合は専用病
棟でPCRの結果が判明する
まで陽性患者として対応して

地 域 で 完 結 する 医 療 へ の 貢 献 に 向 け て

新年明けましておめでと
うございます。平素より永
寿総合病院柳橋分院をご支
援いただき、誠に有難うご
ざいます。地域で完結する
医療への貢献に向けて、本
年も着実な病院運営に取り
組んでゆきたいと存じます。

新型コロナウイルス感染症
(COVID-19)のパ
ンデミックは3年目に突入
しました。新たに出現した
オミクロン株が我が国にお
いても急激な感染拡大をみ
せ、デルタ株に置き換わり
ました。職員には3回目の
ワクチン接種を既に開始し、
全職員の早期の接種完了を
目指してまいります。また、
地域の皆様にご提供できる限
り3回目接種を提供してゆ
きたいと存じます。当院で
は、これまで入院患者さん
のCOVID-19の発生
はありませんが、感染症対
策にはさらに慎重を期して

おります。陰性と分かるまで
は別の患者さんと同室にする
訳にはいきせんので、4人部屋
にもお一人しか入院していた
だくことができず、病床の利
用法が非効率となるだけでは
なく、緊急に入院できる患者
さんの数も制限されてしま
います。限られたスペースの中
でこの問題を解決するため
には、緊急入院を受ける病棟に
個室を増やすしかありません。
そこで4人室を個室に改装す
る工事を今年早々に開始いた
します。個室が増えますと、
その分新型コロナウイルスに感染した
患者さんも多く受け入れるこ
とができますので、感染流行
の際には地域医療により貢献
できると思います。

院内感染を絶対に起こさな
いという職員に共通の強い意
志が優先され、とくに緩和ケ
ア病棟以外での面会に制限を
設けてまいりました。しかし、
十分な準備によって感染を持
ち込む可能性を極めて低く抑
えられることや長期間面会で
できないことのデメリットを勘

まいります。患者さんのご
家族の皆様には面会制限な
ど、さまざまなお不便をお
かけしておりますが、引き
続きご協力のほどをお願い
申し上げます。

当院開院時からご勤務さ
れた崎原宏名誉顧問（整形
外科）が退任されます。崎
原先生には心より感謝申し
上げます。そして、4月よ
り山内健二先生を柳橋リハ
ビリテーションセンター長
としてお迎えし、運動器リ
ハビリテーションのさらな
る活性化を図ってまいりま
す。療養医療では、院内感
染症対策、オンライン面会、
褥瘡対策などを継続してま
いります。

当院では構造上、発熱患者
さんと入院患者さんとの接
触が避けられないため、発
熱外来を設定しております
ん。ご理解のほどをお願い
申し上げます。主な外来診
療科である内科、整形外科
のほか、永寿総合病院から
派遣医により小児科、皮膚

案し、予約制の面会を再開し
ております。主治医または病
棟スタッフにお気軽にご相談
下さい。

この場をお借りして病院の
現状や近い将来の青写真につ
いて述べました。外来診療の
システムや接遇など、まだま
だ行き届かないことの多い病
院であるとは思いますが、皆
様の役に立ち患者さんを助け
ることがわれわれの仕事であ
るといふ基本的な理念を、全
ての職員に浸透させるよう病
院責任者としてこれからも努
力してまいります。

最後に皆様のご多幸とご健
康をお祈りいたします。

本年も変わらぬご支援とご
愛顧の程お願い申し上げます。



科診療を引き続き行ってお
ります。

COVID-19は医療に
さまざまな負荷をかけてい
ますが、ワクチン接種と新
規治療薬の出現により、今
年こそはCOVID-19を
乗り越えてゆけると期待し
ております。

本年もどうぞ宜しくお願
い申し上げます。



院長・センター長挨拶

絆

永寿総合健診・予防医療センター センター長
小山 恭正

Yasumasa Koyama



高まる健康への
感心のために

謹んで新年のお慶びを申し上げます。
旧年中は格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございました。
コロナ禍で外出を控えるため、がん検診や健康診断の受診者が減少しているといわれています。そのため進行がんの発生が激増するのではないかと懸念されてもいます。
しかし当センターの2021年の上半期のご受診者様は、2019年以前には及ばないものの、2020年の倍近くまで急速に回復しています。
2021年12月には単月で過去最高のご受診をいただくことができました。また例年に比べ2021年は初回受診の方がたいへん多くなっています。地域の皆様の健康に対する関心の高まりが感じられる1年でした。
2021年より台東区総合健診にオプション検査が選べ

るようになりました。
当初へビースモーカーの方に胸部CTをお勧めするために始めましたが、頭部MRI、腹部エコーなども多くの希望をいただいております。無料の健診に高額のオプションを付ける方がいらっしやるかどうか半信半疑で始めた企画でしたが、ここでも健康への関心の高まりを感じさせられました。
今年もより多くの皆様に良質な健診を提供し、地域と病院の架け橋となるべくスタッフ一同努力してまいります。本年もよろしくお願ひ申し上げます。



看護部長挨拶

柔軟に変化しながら前へ

熱願冷諦

看護部長
北川 順子



新しい力を得て
進化する組織になる

2020年度クワスター発生を機に140人の看護職員が退職しましたが、2021年は多くの新人職者を迎えることができました。看護人員不足という課題を、たくさん部門の職員に支えられながら一歩ずつ解決に向けて取り組んでいるところです。

一度閉じた病棟や機能を開くために看護職員を採用し、看護技術の確認と組織のルールの習得、夜間業務の自立を目指し育成します。時間をかけてでも、大変でも、乗り越えないことにはともに看護していく仲間を増やすことができませんので、踏ん張りどころです。

今まで蓄えていた底力ある職員と新入職力を掛け合わせて、組織として成長して参ります。

感謝することを
意識して生きる

新型コロナウイルス感染症で、地域で生きていくとはどういうことか、大事なものを、守りたいものが具体的に変わった方も多いと思います。私たちは困っているとき手を差し伸べてくれる人がいること、聞いてくれる人がいることで前を向くことができました。今でも感謝しかありません。
人へ、自分へ感謝する気持ちが持てるのか、伝えているか、感謝する気持ちが持てないときはどうするか。自分なりの意識の仕方を少しずつ育ててみると、人への感謝が変化していることに気付きます。

この感染症を経験して、今日感じた感謝は『今』伝えることの大切さを学びました。感謝を伝えると穏やかな気持ちになることも多いものです。なかなか不自由な日常ではございますが、自然と感謝を言葉にできるよう環境を整え、人を育てて参りたいと思います。

昨年は当たり前の日常が、当たり前ではないことを自覚し、感染を防ぎながらどうすれば生活が取り戻せるのか、柔軟な思考と行動を求められた1年でした。どんな状況下でも柔軟に変化しながら一歩前へ進む努力をして参りますので、ご不便をおかけして申し訳ございませんが、感染対策など、より一層のお力添えくださいますようお願い申し上げます。

皆様にとつても明るい年となりますよう祈念いたします。

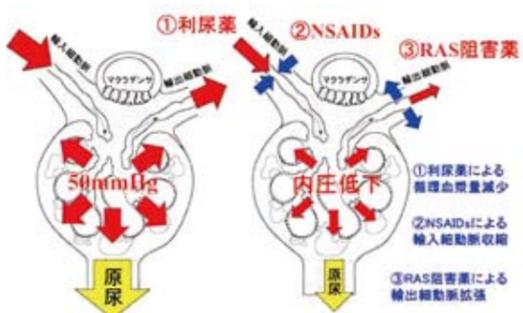


トリプル
Triple Whammy
に注意!!

Triple Whammyという言葉聞いたことがあるでしょうか? レニン・アンジオテンシン系阻害薬(以下RAS阻害薬)、利尿薬、非ステロイド性抗炎症薬(以下NSAIDs)の3剤併用している状態をTriple Whammyと呼び、腎障害のリスクの増加が報告されており、

Triple Whammyにより腎障害を起しやすくなるメカニズムは腎臓の糸球体の虚血により、図に示すように、NSAIDsにより輸入細動脈が狭窄し糸球体に入ってくる血液量が減ります。RAS阻害薬により輸出細動脈が拡張し糸球体から排出する血液量が増えます。また、利尿剤により血液の血漿量が減るわけです。夏場などでこの状態に脱水が加わったらどうなるでしょうか? 腎障害のリスクは増える一方です。

Triple Whammyと糸球体



Triple Whammyは禁忌ではありませんが、腎障害のリスクを考えれば避けたいところです。しかし、心不全の治療など、疾患によってはRAS阻害薬、利尿剤の治療は欠かせません。その状況に疼痛管理が必要な疾患がある場合には注意が必要です。Triple Whammyにおけるシックデイルール対応も必要になります。嘔吐、下痢などの脱水を伴うようなシックデイ時は該当する薬の休薬を考慮するという事です。RAS阻害薬の漫然な処方なるべく避けるのもリスクを減らす一つの手段です。
夏場は特に飲水励行も有効でしょう。腎臓は体液管理をする大切な臓器の一つです。発見が遅れてしまいダメージを負い過ぎてしまうと元には戻りません。Triple Whammyを見つけた際には全体的に服用薬を見直してみたいかがでしょうか? (荒井)

図) 平田の薬剤師塾 ~薬のことを分かりやすく丁寧に~より抜粋

教えて!

気になる病気の話

今回のテーマ

連載
よくある症状『頭痛』について①



脳神経内科 副部長
馬嶋 貴正

頭痛はよくある症状です

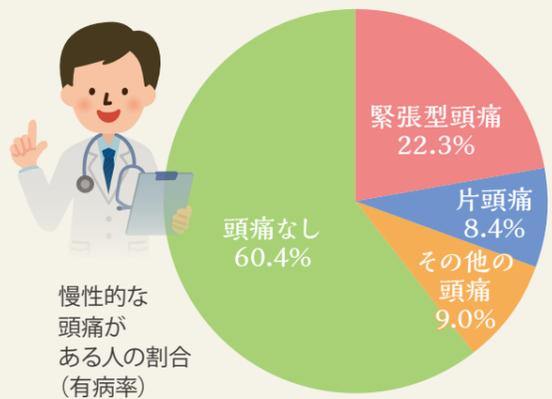
初めまして。永寿総合病院 脳神経内科の馬嶋貴正です。

脳神経内科は脳・脊髄・末梢神経・筋肉を対象とし内科治療を行う専門科であります。こう書くとなんか難しく感じられるかもしれませんが、脳神経内科医は頭痛・認知症や脳梗塞などの専門家でもあります。と書くとなんか身近に感じていただけると思います。当院の脳神経内科には常勤医師が3人おり、副院長の白井俊孝医師・井上幸治医師・私馬嶋がスタッフとして勤務しております。後期研修医の舩舞平医師も加わり、2021年度の診療を行っております。

本日はこの記事にて日常皆様がよく経験する頭痛についてお話しいたします。2021年に使用可能となった、CGRP関連抗体

製剤による治療の話もいたします(CGRPとは calcitonin gene-related peptide の略)。

突然ですが、「頭痛を今まで一度も感じたことがない。」そういう方はほほほほと思えます。実際には、日本の習慣性の頭痛の有病率は、片頭痛8.4%、緊張型頭痛22.3%と言われており、3割程度の方が頭痛に悩んでいる現実があります。



慢性的な頭痛がある人の割合(有病率)

その頭痛、危ない病気が隠れていない?

みなさまが自覚する症状である頭痛、これは様々な疾患(=病気)の原因となつて起こっています。頭痛のほとんどは、片頭痛や緊張型頭痛などの一次性的頭痛で、危険な原因ではないものです。しかしながら、頭痛の数%程度は別の重要な原因がある二次性頭痛です。この原因には、命に関わるくも膜下出血や頭蓋内出血も含まれ、早期の診断が重要です(図1)。この診断が、頭痛診療の第一歩であり、最重要の目標の一つです。頭痛患者さんをご診察する場所は、診療所の外来・救急外来・内科外来・頭痛外来・脳神経外科外来・脳神経内科外来と多岐に渡りますが、いずれでも図2のような特徴がないかを留意して医師は診察しております。

図1

二次性頭痛の原因疾患(一部)



図2

二次性頭痛を疑うとき

長く続く頭痛



24時間を超えて一回も頭痛が改善しない頭痛

他の症状を伴う頭痛



発熱や皮疹、意識障害(呼びかけへの反応が悪い)、痙攣、神経脱落症状(手足が動かせない、話すのが不鮮明になったなど神経がうまく働かないための症状)など

普段のパターンと異なる頭痛



普段頭痛持ちの方でも、パターンが変わったら要注意

急に生じた頭痛



15分以内など急激に完成した頭痛

基礎疾患のある方の新規の頭痛



妊娠中または産褥期、50歳以上、担癌患者(ガンがある方)、HIVなどの免疫系病態がある方

危険な頭痛を除外できたあとは、習慣性頭痛の治療に移りますが、これはまた次号の広報誌「えいじゅ」でお話をさせていただきます。

次号予告 連載 よくある症状『頭痛』について② 『習慣性頭痛の治療について』

検査科だより

編集担当：渡辺、野崎

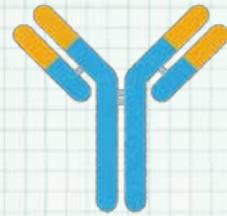
新型コロナウイルス抗体検査について

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は今日まで何度も陽性者数の増減を繰り返しており、未だ収束には至っておりません。第5波は、ワクチンの普及などにより感染者数が減少しましたが、オミクロン株出現により、再び感染者数が増加し不安を持たれている方も多いと思います。そこで今回は、薬局でも目にする機会のある新型コロナウイルス抗体検査についてご紹介します。



抗体とは？

抗原（ここでは新型コロナウイルス）が体内に入ると産生されるたんぱく質です。特定の抗原と結合することで、白血球などの助けを借りて体外へ排除させたりする作用があります。また、ウイルスが細胞内に侵入するのを防いだり、毒性を弱めて重症化を防いだりする作用もあり、中和抗体と呼ばれています。ワクチンはこの作用を利用して、新型コロナウイルスワクチンの場合、2回目のワクチン接種後一週間程度で、かなり免疫（抵抗力）ができるといわれています。



抗体検査とは？

抗体検査により①ワクチン接種後の上昇の程度（抗体価）、②ワクチン未接種者のみ過去の感染の有無、を知ることができます。抗体価を調べる方法には、定性検査と定量検査の2つがあります。

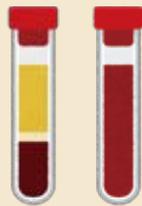
定性検査

抗体があるかないかを、大まかに知るための検査です。薬局などで目にする抗体検査キットです。具体的な抗体量を知ることはできません。



定量検査

自動測定装置で抗体を測定し、抗体価を具体的な数値として知ることができます。当院で患者様にご紹介している検査もこの定量検査です。



当院での抗体検査

- | | |
|---------------------------------|---|
| ◆検査法
S抗体定量検査 | ◆検査材料
採血が必要です |
| ◆費用
5,500円（自費検査） | ◆抗体陽性証明書
発行可能 2,200円 |
| ◆実施場所
・予防医療センター
・永寿総合病院外来 |  |

今回は、抗体検査についてご紹介しました。

永寿総合病院では、抗体定量検査の他に、PCR検査や抗原定量検査、抗体定性検査も実施しております。ご興味をもたれた方は、予防医療センター受付や外来受付にてお声がけください。

皆様からの温かいご寄附をお待ちしております

永寿総合病院・柳橋分院・予防医療センターは運営に対し、企業や個人の皆様方から広く寄附金を受け入れ、その成果を通じて地域医療の向上や必要とされる医療を確保し社会貢献に役立てます。
なお、当財団への寄附は、税制上に優遇措置があります。（詳細についてはお問い合わせ下さい）

寄附金の使途

1. 病院に必要な設備の拡充
2. 病院に必要な機器・消耗品の購入
3. 成人病を中心とした予防治療等の調査・研究に使用します

お問い合わせ、お申込み

財団事務局 寄附係
TEL：03（3833）8383

地域医療支援病院 / 東京都災害拠点病院
永寿総合病院



永寿総合病院 柳橋分院



日本人間ドック学会認定 / 日本脳ドック学会認定
永寿総合健診・予防医療センター

